

## ロコモティブ シンドローム 第7話 -腰部脊柱管狭窄症の巻-

ロコモティブ シンドローム 3 大疾患の最終巻です。今回は腰部脊柱管狭窄症（ようぶせきちゅうかんきょうさくしょう）を紹介します。

《 症状 》 お尻からあしの後面に痛みが走り（坐骨神経痛 図 1）、しびれ（図 2）や冷感をともないます。腰痛は有ったり無かったりです。しばらく歩くとあしの痛みやしびれが強くなり歩けなくなり、座ったり前かがみになることで症状がとれ再び歩けるようになる間欠性跛行（かんけつせいはこう 図 3）は特徴的な症状です。

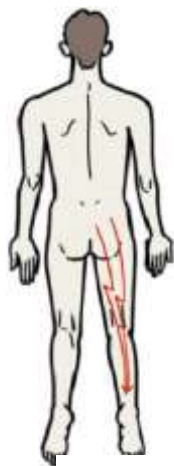


図 1

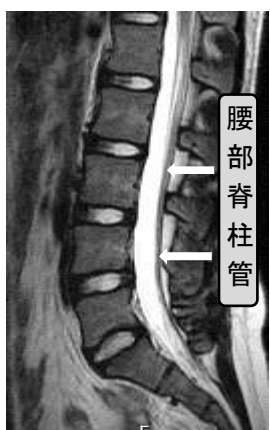


図 2



図 3 間欠性跛行

《 原因 》 腰の背骨の中にある神経が、加齢による骨変形や椎間板の突出で圧迫・狭窄されることにより生じます。左下の写真は 10 歳代の方のレントゲン写真と MRI です。変形は無く、腰部脊柱管も広く見えます。右下は 86 歳の患者さんで、背骨は角に棘があり、MRI では数カ所で砂時計様に脊柱管が絞られています。腰に問題があって生じる病気です。



《 治療 》 リハビリテーション、コルセット、神経ブロックや脊髄の神経の血行を良くする薬などがあります。これらで症状が改善することもあります。背骨の変形が治るわけではありません。歩行障害が進行し、日常生活に支障が出てくる場合には手術を行うこともあります。最近では内視鏡を使った低侵襲手術も行われています。